

奈良県で確認された若干の蛾類の記録 (2)

木村 史明

Distributional records of some Moths from Nara Prefecture (2)

Fumiaki KIMURA

キーワード：奈良県, シャチホコガ科, ドクガ科

Key words: Nara Prefecture, Drepanidae, Notodontidae, Lymantriidae

はじめに

2017年発行の「奈良県野生生物目録」では1,502種の蛾類昆虫が奈良県内から記録されている。その後の調査などで確認された、この目録に未収録の蛾類のうち、今回はシャチホコガ科、ドクガ科に属する若干の種を記録しておく。

チョウ目 シャチホコガ科

ユミモンシャチホコ

Ellida arcuata (Alphéraky, 1897)

高取町高取, 16. IV. 2017, 1ex., 筆者 撮影

【確認時の状況】 14時頃、遊歩道脇の石上で静止していた。

ユミモンシャチホコは、4～5月の春に見られるがで、幼虫はケヤキやハルニレなどのニレ科を寄主植物とする。日本では北海道から九州まで分布する。



図1：16. IV. 2017, 高取町高取

アカシャチホコ

Gangaridopsis citrina (Wileman, 1911)

十津川村旭, 04. VIII. 2021, 1ex., 筆者 撮影

【確認時の状況】 19時頃、ライトトラップに飛来した。

アカシャチホコは、日本固有種で本州、四国、九州に分布し、幼虫はマンサク科のマンサクが寄主植物として知られている。成虫は5, 6月と8, 9月に出現する。



図2：04. VIII. 2021, 十津川村旭

イシダシャチホコ *Peridea graeseri* (Staudinger, 1892)

十津川村神下, 13. IX. 2014, 1ex., 筆者 撮影

五條市大塔町篠原, 28. VIII. 2022, 1ex., 筆者 撮影

【確認時の状況】 両個体とも比較的自然度の高い林に向けて設置したライトトラップに飛来し、十津川村神下の個体は22時20分頃、五條市篠原の個体は20時50分頃確認した。

イシダシャチホコは、国内では北海道から九州に分布し、幼虫の寄主植物はハルニレやケヤキ、オヒョウなど

が知られている。成虫は6月と8、9月にみられるとされる。



図3：13. IX. 2014, 十津川村神下

エゾエグリシャチホコ

Ptilodon jezoensis (Matsumura, 1919)

上北山村西原, 12. V. 2020, 1ex., 筆者撮影

十津川村旭, 04. VIII. 2021, 1ex., 筆者撮影

【確認時の状況】 いずれの個体もブナが混じる林に設置したライトトラップに飛来したもので、上北山村西原の個体は22時20分頃、十津川村旭の個体は20時50分頃確認した。

エゾエグリシャチホコは、日本固有の種で北海道から九州まで記録されている。幼虫の寄主植物はブナ科のミズナラやトチノキ科のトチノキ、シナノキ科のシナノキなど多岐にわたる。年2化し、成虫は5、6月と8月ごろに現れるとされる。



図4：12. V. 2020, 上北山村西原

シロスジエグリシャチホコ

Fusapteryx ladislai (Oberthür, 1880)

上北山村小椽, 25. VII. 2011, 1ex., 筆者撮影

十津川村旭, 23. VII. 2021, 1ex., 筆者撮影

【確認時の状況】 いずれもブナが混じる森林環境にある灯りで確認したもので、上北山村小椽の個体は23時30分頃建物の外灯で、十津川村旭の個体は23時20分

頃ライトトラップに飛来した。

シロスジエグリシャチホコは、日本では北海道から九州まで記録されている。幼虫はウリハダカエデやイタヤカエデなど、カエデ科の各種を寄主植物とすることが知られている。



図5：23. VII. 2021, 十津川村旭

チョウ目 ドクガ科

バンタイマイマイ

Lymantria bantaizana Matsumura, 1933

五條市大塔町篠原, 18 VII. 2022, 1ex., 筆者撮影

五條市大塔町篠原, 23 VII. 2022, 1ex., 筆者撮影

【確認時の状況】 7月18日の個体は早朝3時40分頃、前夜から設置していたライトトラップに飛来しているのを確認した。7月23日の個体は、午前2時頃、同じく前日夕刻から設置していたライトトラップに飛来したものである。

バンタイマイマイは、日本固有種で主に東北から関東、中部地方などの本州から記録されている他、四国でも確認されている。年1化で、7、8月に現れるとされ、クルミ科のサワグルミやオニグルミなどが幼虫の寄主植物として知られている。



図6：17. VII. 2022, 五條市篠原

チョウ目 コブガ科

シンジュキノカワガ

Eligma narcissus (Cramer, 1775)

五條市大塔町篠原, 30 IX. 2022, 1ex., 筆者 撮影・採集 (橿原市昆虫館保管)

30 IX. 2022, 五條市大塔町篠原

引用および参考文献

井上寛 他, 1982. 日本産蛾類大図鑑

杉繁郎 他, 1987. 日本産蛾類生体図鑑

岸田泰則 他, 2011. 日本産蛾類標準図鑑 2

奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課,
2017. 奈良県野生生物目録

井藤竜太 他, 2018. 奈良県からのシンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cramer, 1775) (チョウ目: コブガ科: シンジュキノカワガ属) の初記録. *Nature Study* 64(7):6.

シンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cramer, 1775) に関する訂正と追加記録

2022年3月発行の橿原市昆虫館研究報告 第1号の「奈良県で確認されたガ類の記録1 (カイコガ科, ヤママユガ科, ヒトリガ科, コブガ科)」において, 2017年11月7日に奈良市登大路町において採集されたシンジュキノカワガについて, 「奈良県では最初の記録と思われる。」と記したが, 実際には2015年に奈良県で採集された本種が2018年に報告されており (*Nature Study* 64 (7)), 最初の記録ではなかったので訂正したい。

御教授いただいた大阪市立自然史博物館の長田庸平学芸員に深謝申し上げます。

尚, 2022年に五條市内で本種の確認をしているので, 追加の記録としておく。